

なめりかわ 宿場回廊めぐり

ガイドマップ



いにしへの宿場町を訪ねる 回廊めぐり


文治2年(1186)の文書に「滑河」の地名が、「梅沢」「小泉」の地名とともに現れます。これは、滑川が文献に現れる最初です。戦国時代に社寺が焼き払われた記録も残されており、古くから人々の営みが続けられていたことが分かります。「滑川」の由来・所在については諸説がありますが、その滑川を中心であった中川河口一帯は、藩政期に北陸街道の宿場町として人の往来や物資の流通で賑わったところでした。

いにしへの宿場町を回廊のように見て回っていただき、しばし足を止め、今に残る歴史の息遣いを感じ取ってください。静かに語りだす滑川物語に耳を傾け、過去と未来に思いを寄せていただけたら幸いです……。

●QRコードを読み取ると、より詳しい説明がご覧になれます。


5 鍛冶屋橋と中町

江戸時代初期頃、神明町と中町の境界を成す大町川が街道を横切るあたりに鍛冶屋が置かれました。東側には、御蔵所があったため川に橋が架けられ鍛冶屋橋と呼ばれました。





6 芭蕉「奥の細道」と川瀬屋

松尾芭蕉と同行の曾良が「奥の細道」の旅において、元禄2年7月13日(新暦8月27日)の夕方に滑川に着いて宿をとったのが、旅籠「川瀬屋」と云われています。




**お薦めコース1
宿場回廊通り抜け**

絶景ポイント
 剣岳
 蜃気楼

**お薦めコース2
滑川の米騒動**


7 桐沢本陣と大町

大町は滑川発祥の町で、文治2年京都八坂社の荘園である堀江荘にあった「滑河村」は、ここに成立した村落であったと考えられています。慶長20年加賀藩によって北陸街道の宿場町として再編されました。








8 橋場

北陸街道の中心部を流れる中川河口で町の東西を結ぶ橋の左岸を橋場といいます。藩政時代には、河口の船着き場で年貢米が積み出されるなど、中新川郡の物資の集積地として賑わいました。




**お薦めコース3
おくのほそ道を辿って**

凡例
 駐車場
 ウォーク
 コミュニティバス
 バス停
 富山地方鉄道

**お薦めコース4
ほたるいか観光
発祥の地と
魚躬遺跡**


9 瀬羽町(せわまち)と信仰の道

橋場から西側の狭町(瀬羽町)は、文化10年には251軒の商売屋があり、商家が集まった町でした。町外れには街道から立山へと続く登拝道があり、道標が残っています。



10 晒屋(さらしや)


新川木綿の生産がされ、綿屋・木綿の商売・染物屋で賑わっていた江戸時代に、町の中央を流れる中川の清流で綿布や麻布を川面にさらす「晒屋」がいたことから由来しています。



**お薦めコース5
国登録有形文化財めぐり**


11 くすりのまち滑川

享保18年、高月村の高田千右衛門が富山の薬種商松井屋源右衛門から「反魂丹」の製法を習い、反魂丹屋千右衛門と名乗り製造販売したのが始まりとされます。




12 四間町(しけんちょう)と徳城寺

四間町は享和年間、人家が4軒あったことに由来します。徳城寺は、明治13年に現在地に移転してきました。境内には、明和元年に芭蕉70回忌に翁を顕彰するために建立された有徳塚があります。



13 吾妻町

加賀藩の東の御蔵があったことから、東町と名付けられ、のちに吾妻町と改められました。江戸期には、滑川町東御蔵所は御台所と呼ばれ、6棟21倉の米蔵がありました。



なめりかわ 宿場回廊めぐり ガイドマップ

- 宿場回廊説明サイン
- 見どころポイント
- 文化財等
- 公園・休憩所など
- トイレ
- 観光案内所
- 駐車場



◎宿場回廊の主な国登録有形文化財

廣野家住宅主屋 旧宮崎酒造主屋 城戸家住宅主屋 小沢家住宅店蔵

ご希望の方には、宿場回廊ガイドをいたします。
詳しくは、下記までお問い合わせください。



滑川市観光協会
〒936-0021 富山県滑川市中川原410 TEL(076)476-9200 FAX(076)476-9201
mail:info@namerikawa-kanko.jp
http://namerikawa-kanko.jp/
滑川市観光協会 (Tourism Namerikawa)
namerikawa_style 200310K

① 北陸街道「滑川宿(なめりかわじゆく)みちしるべ」

平安期頃、今の市域辺りに「堀江荘」という京都祇園社の荘園がありました。文治2年に八坂社の六月会の費用を負担する料所として「梅沢・小泉・滑河」が指定されました。これが滑川の地名の初見です。



② 和田の浜「二大奇観とネブタ流し」

かつて白砂青松の海岸だった和田の浜は、戦国時代の古戦場でした。この浜で毎年7月31日に行われる無病息災を願う「滑川のネブタ流し」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。



③ 常盤町と町域の拡大

滑川宿東端の神明町に連続して東に拡大したこの地域は、天保期に「新屋敷」と呼ばれました。万延元年に称永寺が現在地に移り、参道周辺に茶屋街が立ち並び、明治時代に常盤町と改められました。



④ 櫛原神社(いちほらじんじや)と神明町

櫛原神社は、江戸時代に柳原村からこの地に遷されました。境内には、松尾芭蕉の句碑が建立されています。天明3年の「滑川惣絵図」には「神明社」と記されており、この社地に成立したのが神明町です。

